

入試問題にみる統計分野について

実践女子大学 竹内 光悦

現在の高等学校での学習指導要領において、統計に関係する項目が教科数学の中で必修科目である数学 I に含まれることとなり、これにより中学校入試、高等学校入試、大学入試とそれぞれの入試で少なからず出題されるようになった。各学年の担当教員からしても入試問題として出題されることは指導すべき内容として重要であり、対面する児童・生徒の必要度に応じて、程度の差はあれども指導内容に含めることを考えている。このことはこれまで教科書に統計関係の内容は書かれていても、生徒の受講経験の意識が低い課題や理解度のばらつき課題に関して一定の効果が期待される。

このことに対して、これまでは選択科目であったこともあり、学校教育下では統計に関係する問題作成をしているところは多くはなく、教員間でも戸惑いが出ていると言われている。その場合には日本統計学会公式認定されている「統計検定」(統計質保証推進協会、2019)などの統計に関係する問題や国立教育政策研究所(2019)の全国学力・学習状況調査で使われる数学の問題などが参考になる。

このように統計が学校教育の中でもいろいろ含まれるようになったが、特に入試問題に含まれる統計になったことで、どのような問題が出題されるか、どのような質の問題が作題されるかが今後ますます重要な話題になることが予想される。逆に言えば、出題されることがまず重要ではあるが、出題されたときにその質も問われる状況になりつつある。しかしこのような課題に関して、関係者間で情報交換が十分にされているとはいいがたく、そのような機会が作るということが重要であろう。

そこで本セッションでは、特に大学入試における統計関係の作題に注目し、参加者間の情報交換を目指して、関連情報を紹介する。特に多くの大学受験生が利用することが予想される「大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト」(新テスト)については、これまでに公表されている2回分の試行調査における統計に関係する部分を紹介し、その問題に関する統計教育関係者の意見等を紹介する。またこれらに加え、関係研究者にもご発表いただき情報交換を目指す。さらに上述した統計検定やこれまでの統計に関係する入試問題は選択肢形式が多かったことから記述問題についてもすでに出版されている大学問題を紹介し、その傾向などを議論する。

これらの情報交換により、大学において統計に関係する出題が増えること、また質の良い問題が増えることを期待したい。

参考文献

- [1] 国立教育政策研究所(2019) 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」、<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html> (最終確認日: 2019/06/28)。
- [2] 統計質保証推進協会(2019) 統計検定公式ホームページ、<http://www.toukei-kentei.jp/> (最終確認日: 2019/06/28)。